

野田市教育委員会定例会会議録

- ◇日 時 令和2年12月23日（水）午後1時30分開会 午後2時35分閉会
- ◇場 所 野田市役所低層棟4階委員会室
- ◇出席委員 佐藤裕教育長 高橋保教育委員 伊藤稔教育委員 飯田芳彦教育委員 永瀬大教育委員
- ◇説明職員 山下敏也教育次長（兼）生涯学習部長 戸塚進教育総務課長 安藤剛行生涯学習課長 桑村典子青少年課長（兼）青少年センター所長 横島司興風図書館長 船橋高志学校教育部長 下川泰弘学校教育部次長（兼）学校教育課長 山田桂一指導課長

◇書 記 鈴木一敏教育総務課長補佐（兼）庶務係長

◇付議事件

- (1) 令和2年度末及び令和3年度野田市立小中学校職員人事異動方針について

◇教育長の報告事項

・生涯学習課

- (1) 令和3年野田市成人式について
- (2) サンスマイル実行委員会文部科学大臣賞受賞について
- (3) さわやかちば県民プラザ「ちばのお宝再発見」への鈴木貫太郎記念館資料の出版について

・学校教育課

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について
- (2) 公立幼稚園園児応募状況について
- (3) 令和2年度第1回野田市通学区域審議会会議の概要報告について
- (4) 野田市表彰条例に基づく表彰等について（学校教育部）
- (5) 小学校35人学級について

・指導課

- (1) 野田市いじめ問題対策委員会の進捗状況について
- (2) 令和2年度第2回いじめアンケートの結果について
- (3) 第65回こども県展特別賞について
- (4) 令和2年度「税」についての作文会長賞受賞について
- (5) 第70回社会を明るくする運動千葉県作文コンテスト千葉県更生保護女性連盟会長賞受賞について

◎佐藤教育長

ただいまから、令和2年12月教育委員会定例会を開会いたします。

本日、傍聴者はありません。

本日の会議録署名委員を飯田委員にお願いします。

(飯田委員了承)

◎佐藤教育長

会議録承認の件に入ります。令和2年11月定例会の会議録について、事前に資料を配付しているところですが、御意見等ございますか。

御異議ございませんでしょうか。

◎全委員

(異議なし)

◎佐藤教育長

御異議なしと認め、会議録につきましては、承認します。

次に、会議次第に従い議題に入ります。

議案第1号を議題とします。

(書記議案朗読)

◎佐藤教育長

事務局から説明をお願いします。

学校教育課長。

◎下川学校教育課長

議案第1号 令和2年度末及び令和3年度野田市立小中学校職員人事異動方針について御説明申し上げます。

資料の2ページを御覧ください。野田市の小・中学校職員の人事異動につきましては、千葉県教育委員会の定める「公立学校職員人事異動方針」及び「東葛飾教育事務所人事異動推進方策」を基本として進めております。本市教育の一層の充実を期するため、全市的な立場で職員の重点強化等、教育現場の人的条件が一層整備されるよう人事異動を図ってまいりたいと考えております。また、職員の資質の向上と人材育成を図り、「市民に信頼される学校づくり」、「開かれた学校づくり」を推進したいと思っております。円滑な学校運営が行われ、教育効果を高めるため、職員構成上の地域等格差や永年勤続者の解消を図り、適材適所の人事を積極的に推進していきたいと考えております。

特に、近年、県の方針に伴い、市間交流が強力に進められております。また、県立学校等の交流については「新規採用5年から10年程度の教員が対象となる、若手教員交流」と、「教職経験10年以上の教員が対象となる、中堅教員交流」が行われ、若手同士の交流も増えてきています。今後も人材育成の観点からも、積極的に進めてまいりたいと思っております。

さらに、野田市の人事異動に係る留意点につきましては、資料4ページのとおり、六つの重点を設け取り組んでまいります。

概要を申し上げますと、1、人事異動については全市的立場に立つて行うこと。2、管理職は女性の積極的な登用を含め、適正な配置及び登用に努めること。3、計画交流を含めた積極的な市間交流を図ること。4、特別支援教育の指導者の確保と適正配置を図ること。5、新規採用職員の配置について、十分に配慮すること。6、再任用職員の配置について、学校や地域の実情等を踏まえて、計画的に行うこと。以上に留意して進めてまいります。

説明は以上となります。

よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

◎佐藤教育長

ただいま事務局から説明がありました。御質問、御意見等がありましたらお願いします。
飯田委員。

◎飯田委員

4ページの項番2の関係なのですが、大幅交代期ということで、かつてもお伺いしたか
と思いますが、この大幅交代期の具体的な数字等々が分かれば教えていただけますでし
ょうか。

◎佐藤教育長

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

大幅交代ということですが、今年度末、校長退職者、定年退職者は8名、来年度は7名
を見越しております。
以上でございます。

◎佐藤教育長

飯田委員。

◎飯田委員

ありがとうございます。この8名、7名というのは、私、委員を仰せつかって何年かた
っているんですけども、大体例年だと4、5名かなと思っているんですが、そのくらい多
いというようなことでよろしいのでしょうか。

◎佐藤教育長

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

令和元年度も実は8名でして、ここ数年、そのような数となっております。
今後も、やはりそのぐらいの数が数年続く見通しであります。
以上でございます。

◎佐藤教育長

飯田委員。

◎飯田委員

ということは、2年間で半数以上が変わってしまうというような、割合的にはそんな感
じですか。

◎佐藤教育長

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

そのとおりでございます。

◎佐藤教育長

そのほかございますでしょうか。

高橋委員。

◎高橋委員

2ページの2番目、「千葉県・千葉市教員等育成指標」という言葉ありますが、この内
容について教えていただけますでしょうか。

◎佐藤教育長

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

これは、ここ数年なんですけれども、千葉県、千葉市両方に共通した育成指標と示されております。今回はこの資料を付けていなかったもので、後ほどそれはお示ししたいと思います。申し訳ありません。よろしく申し上げます。

◎佐藤教育長

そのほかございますでしょうか。

伊藤委員。

◎伊藤委員

今年度からGIGA（ギガ）スクール構想の予算が計上されて、来年4月から小中学校で運用が始まると思うんですけども、その辺りの担当できるような教員、あるいはそういう人の配慮というのは、この人事異動の方針の中には入れるのか、入れないのか、その辺よく分からないんですが。

◎佐藤教育長

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

このGIGAスクールに関しましては、各学校で担当者、コンピューター担当、それから、各地区ブロックごとにコーディネーターを設置してやる形になっております。ただ、この人事異動に関してこのコンピューターに卓越した者を均等に配置するというようなことは、現在のところ、そこまではできておりません。

以上でございます。

◎佐藤教育長

伊藤委員。

◎伊藤委員

来年4月から学校に1人か2人は、そういう担当の先生がいらっしゃるというふうな理解でよろしいでしょうか。

◎佐藤教育長

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

各学校では、そのような担当を設置してもらう予定になっております。

以上でございます。

◎佐藤教育長

そのほかございますでしょうか。

高橋委員。

◎高橋委員

同じような質問ですが、GIGAスクールが実際にできるかできないか。あるいは、今デジタル教科書が盛んに問題になってきております。これも、やはり端末に詳しい教員でないとなかなか操作できない。まして、子供たちに指導するわけですから、そういう知識がないとデジタル教科書なんていうのは利用できないんじゃないかと思うんですが、今、市内の先生方のパソコンの操作については、成績処理なんかはもうパソコンでやられているというふうに聞いていますので、かなりできるようにはなっているかと思うんですが、実際には、どの程度の習得率とお考えになっているんでしょうか。

◎佐藤教育長

指導課長。

◎山田指導課長

先生方も得意、不得意あると思うんですけども、既に今年度、G I G Aとは別の路線で、昔の教育政策の一つで、「N I C T (ニクティ)」という、野田市のICT活用というようなことで、昨年度末から取り組んでおります。その中で、授業の中での活用というところでは、今、このG I G Aスクールと合わせて各学校から事例を集めて、100ちょっとぐらい集まっているような状況になっています。

このG I G Aの方でも、実は各学校に指導課の方から、このG I G Aスクールに関して、そもそもどういうものなのかということも含めて、2週間に1回程度、各学校にこういった通信を送っているような状況で、周知徹底を図っています。

また、今年度10月に、私の方が各小中学校を全て回らせていただいて、今後の展望であるとか、こういうことをお願いしたいというようなことを先生方にお話しさせていただく機会を設けていただいて、その時にですね、一つ今年度中に準備としてお願いしたこととして、1回はリモートでの指導を、朝の会でも帰りの会でも授業でもいいので、場所は職員室から帰りの会で教室にいる子供たちに向けてでもいいので、リモートの操作を覚えるために、リモートを一度は体験しましょうというようなお願いをしてきたところです。

それで、今回G I G Aスクールで、端末を1人1台使って事業を進めていくわけなんですけれども、そういったところで、教師の操作というのは、さほど心配はしておりません。若い先生方も増えて、本当に我々よりよっぽど詳しいような先生方もいっぱいおりますので、そちらの方は心配していませんが、そのG I G Aスクールの本来の目的である、授業の中で効果的にそのツールを取り込むというようなところを、今後、研修等を実施しながら力量をアップしていきたいと考えています。

以上でございます。

◎佐藤教育長

高橋委員。

◎高橋委員

伊藤委員さんにお伺いしたいんですが、大学の教職課程の中において、こういうコンピューター教育、パソコン教育、そういったものは必須単位になっているのでしょうか。

◎佐藤教育長

伊藤委員。

◎伊藤委員

実は昨日、学内でF Dセミナーをやりまして、教える側の我々もそうですけども、受け手の学生も、もう既にネットワーク化が進み、大学の学内に入っていて、来年4月から確実に学生が1台タブレットを持つという環境ができて、また、教職課程でも新課程に移行中ですけども、教育法技術っていうのは必修化されています。ですから、その養成がオール2年後、3年後、新しく新課程でトレーニングされた学生は、一応そういう教育方法技術の授業は必修化されていますので、履修して卒業して教員になると。

私もリタイアエイジになりましたけども、後任に工学の野田キャンパスで採用していただいたみたいなので、その若い先生に、この野田市のG I G Aスクール構想に是非一役買ってもらいたいっていうのは、私個人の考えですけども、新しい先生には、そういう形で交代をしていきたいというふうに思っています。

以上です。

◎佐藤教育長

高橋委員。

◎高橋委員

ありがとうございました。ということになれば、これから教員になろうとする先生は、そういう教育も受けてきているし、操作も恐らく習得されて、ある程度かもしれませんがお見えになるので、そう問題はないかと思いますが、年配の先生方については、やっぱり研修しかないと思うので、研修を受けられる先生方も大変ですし、教える方も大変かと思いますが、世の中の流れがそういう方向に向かっていますので、是非ここは教育委員会の方で、研修の場を設けてやっていただきたいなど。そして、せつかくの予算を得たわけですので、その予算を生かせるようなシステムを作り上げていただきたいということを要望させていただきたいと思います。

以上です。

◎佐藤教育長

伊藤委員。

◎伊藤委員

先ほど高橋委員から御指摘のとおり、今年からですね、コロナ禍で、遠隔授業、大学は今、ほとんど遠隔で進んでいるんですけども、我々教員も学生も、こういうデジタルで情報をやり取りして授業をやるというのは初体験で、それがもう来年4月にはこの半年の経験を踏まえて、ハイフレックスとかハイブリッド方式で、大学に来ても来なくても、同じ程度これまでと同じような教育の質の提供をちゃんとやるんだというふうなことで、学長室が音頭を取って、GIGAスクールと同じような形ですけど、学生全員がタブレットを持ち、教員もちゃんとそれに応じた授業公表を行っていくというので、研修をもう進めていますので、そういう中で新しい学校あるいは教育づくりという面では、大学でも学校現場でも、うまく連携しながら何ができて何ができないか。あるいは対面でなければできないこと、あるいは遠隔でもできることっていうのは、これから1年、2年かけて、教育現場のいろんなところで、情報を共有して新しいその教育の在り方みたいなものを作っていくというふうな方向に向かっていくのではないかとというふうに私は、このコロナ危機の中で、教育の在り方そのものが根本から見直されると。これは日本だけの話じゃなくて世界中に及ぶと思うんですけども、そういう中で野田が、ある意味、先進的にですね、子供たちの教育に支援できればというふうに思います。

以上です。

◎佐藤教育長

ほかにございますでしょうか。

(なしの声)

◎佐藤教育長

ないようですので、議案第1号についてお諮りします。

議案第1号について、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

◎全委員

(異議なし)

◎佐藤教育長

御異議なしと認めます。

よって、議案第1号は、原案のとおり可決されました。

次に、教育長の報告事項に入ります。

報告事項に対する質問につきましては、報告事項の説明終了後に一括してお受けしたいと思います。生涯学習課からお願いします。

生涯学習課長。

◎安藤生涯学習課長

生涯学習課から3点御報告いたします。初めに、令和3年野田市成人式について御報告申し上げます。

令和3年1月11日に開催を予定しておりました令和3年成人式につきましては、新成人の新たな門出をお祝いするため、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策を十分に講じた上で、文化会館を会場に開催すべく、成人式実行委員の皆様と共に準備を進めてまいりました。しかし、全国的に感染拡大が止まらず、医療機関や軽症者受入れ施設のひっ迫などが危惧される中、現時点では野田市の医療体制はひっ迫するような状況にはございませんが、予断を許さない状況でありますことから、従来どおりの式典として開催することは難しいと判断し、12月17日の新型コロナウイルス対策本部会議において、会場開催の中止と、オンライン配信により開催することを決定いたしました。

オンライン配信の内容や、記念品の引換え方法につきましては、12月19日の成人式実行委員会において話し合った結果、次のとおりとなりました。まず、配信内容でございますが、市のホームページに特設サイトを開設し、実行委員が作成した予告動画を1月11日までに掲載いたします。式典と恩師のビデオレターにつきましては、1月11日に文化会館で客席に人を入れずに式典を行い、その様子を収録した上で、編集後、13日を目安に特設サイトに掲載してまいります。これらの動画につきましては、個人情報保護のため、令和3年3月31日までの期間を限定して公開するとともに、パスワードを入力しなければ視聴できないようにいたします。パスワードにつきましては、今週中に新成人の皆さまに書面でお知らせを発送いたします。

次に、記念品の引き換えにつきましては、市内10か所の公民館窓口で実施いたします。引換え期間につきましては、成人の日に人が集まり密になることを避けるため、2日後の1月13日から開始し、従来は1月31日までとしているところを3月31日までといたします。

新成人が集う形で門出をお祝いできないことは大変残念であり、新成人を始め多くの市民の皆様にご迷惑をおかけすることとなるため苦渋の選択ではございますが、今般の状況を鑑み、新成人や家族の命と健康を守ることを最優先に考えた結果であり、御理解を頂きたいと考えております。

次に、サンスマイル実行委員会文部科学大臣賞受賞につきまして御報告申し上げます。資料は、1ページを御覧ください。

サンスマイル実行委員会につきましては、ノーマライゼーションの考え方の下、「障害がある人となない人がふれあい、交流を深めることにより、生きる喜びと人間のすばらしさを感じる」ことを目的に、平成2年から1年に1回の公演会「ふれあい広場サンスマイル」の開催を行っている団体でございます。

この度、令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰につきまして、野田市教育委員会から千葉県教育庁へ推薦し、県の選考を経て文部科学省へ推薦され、功労者表彰を受賞いたしました。受賞の理由につきましては、「30年にわたり、障がいのある人となない人が同じ舞台上で合唱やダンス、手話コーラス、演奏等を発表できる公演会を開催し、市民も広くボランティアとして活動に参加しており、障がい者理解の促進、福祉の増進に寄与している」ことが認められたものでございます。

12月8日には、文部科学省の旧庁舎第二講堂において表彰式が執り行われましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のためオンライン中継で行われました。事前に文部科学省から表彰状が送られておりましたので、市役所にサンスマイル実行委員会の皆様

をお招きし、オンライン中継を御覧いただいた後、市長から表彰状を授与させていただきました。

また、今回、サンスマイル実行委員会が事例発表団体の一つに選ばれ、文部科学省の表彰式の後、同じ会場で委員長の小俣文宣氏により活動内容や成果、今後の展望などの発表が行われました。発表の様子は後日、文部科学省のホームページに動画が掲載される予定となっております。

次に、さわやかちば県民プラザ「ちばのお宝再発見」への鈴木貫太郎記念館資料の出展について御説明いたします。

さわやかちば県民プラザからの依頼により、同館1階の県民ギャラリーで、令和3年2月3日、水曜日から14日、日曜日まで開催される「ちばのお宝再発見」に、鈴木貫太郎記念館の資料を出張展示しようとするものです。令和元年10月に台風19号の影響により臨時休館となって1年余りにわたり記念館の所蔵資料を公開できておりませんが、今回初めて資料の出張展示を行い、貫太郎翁の生涯や功績を市外の方へも紹介してまいります。

展示では、貫太郎翁の最期を看取った関宿の医師、濱野政三氏の家に伝わり、平成28年に市へ寄贈された貫太郎翁の書を初めて公開します。濱野氏は、貫太郎翁の晩年に主治医を務めただけでなく、翁の顕彰や記念館の設立にも中心的に関わり、公私にわたる交流があった人物です。

このほか、貫太郎翁の終戦時の心情と戦後の枢密院議長としての活躍、後の記念館建設の契機となる吉田茂や地元の人々との交流について、手紙や貫太郎翁の書などの資料を展示して紹介します。また、貫太郎翁が亡くなった後も関宿に住み、旧関宿町第1号名誉町民となったタカ夫人や、現在野田市で行われている、小学生を対象とした貫太郎翁についての出前授業などの取組も紹介します。

なお、会期中の2月6日には、市の学芸員が資料の見どころを解説するギャラリートークを2回、各回10名の予約制として実施する予定です。

以上でございます。

◎佐藤教育長

次に、学校教育課からお願いします。

学校教育課長。

◎下川学校教育課長

学校教育課から4点報告させていただきます。

まず、新型コロナウイルス感染症の対応についてです。

野田市教育委員会では、「新型コロナウイルス感染症対策通常登校に伴うガイドライン改訂第4版」を公立幼稚園と小中学校に配付し、毎日の検温と健康観察を実施し、子供たちはマスクの着用、手洗いの徹底、3密の回避等、感染防止に最大限取り組んでいます。

報道では、全国で2千人越えの感染者の報告や、都道府県別に一日の感染者が更新した等の情報が入ってきます。「Go To トラベル」も一時中止となり、年末年始の人の動きが懸念されるところです。県内の高等学校では、クラスターが発生しております。近隣の野田中央高校、市立柏高校の関係で、児童生徒が姉、兄の結果が出るまで、学校を休むことも出ている現状です。

12月に入り、野田市内中学校2校において、生徒が陽性者と特定されました。木間ヶ瀬中学校では、12月9日、10日の2日間を臨時休業としました。この2日間は、濃厚接触者の特定及びPCR検査の実施、行動履歴による校舎内の消毒のために休業としました。PCR検査の結果は、濃厚接触者と任意でPCR検査を受けた生徒と職員は54名で、全員が

陰性と判明しました。濃厚接触者となった23名の生徒と職員1名は、12月19日まで自宅による観察期間となっています。23名の生徒には、学習支援としてプリントのポスティング、電話連絡による健康観察等を行っております。

また、第一中学校では、12月13日から15日の3日間を臨時休業としました。保健所より「濃厚接触者はなし」との判断を頂き、学級を任意のPCR検査の対象として、生徒27名、職員6名の合計33名が検査を受けました。15日に、全員の陰性が判明し、16日より学校を再開しております。

さらに、今週21日には、七光台小学校で児童1名が陽性者となり、22日、23日の2日間を臨時休業としました。保健所より「濃厚接触者はなし」と判断を頂き、22日に任意のPCR検査を実施し、本日午後に行動履歴に基づいた消毒作業を行います。PCR検査の結果は、本日夕方に判明する予定です。

任意のPCR検査の実施では、野田市医師会に御協力いただきました。

校内の消毒について、保健所の判断は「消毒の必要はない」とのことでしたが、市長部局、保健センターと教育委員会が協議し、安心安全を確保することから、市独自で消毒作業を行い、市民に周知しております。

最近の報道では、感染経路に家庭内感染が取り上げられています。野田市教育委員会では、12月11日付け、教育長名で「新型コロナウイルス感染拡大防止のお願い」を各校、保護者に配付しました。各家庭には、家族の誰かがPCR検査を受けることになった場合、速やかに園・小中学校に連絡するよう依頼しました。この報告が、半日、一日遅れることで、感染の範囲が大きく変わってくると考えています。引き続き、学校から保護者への啓発をお願いしております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染の終息が見えない状況ですが、家庭と協力し、学校での新型コロナウイルス感染防止に全力を尽くすよう学校を指導してまいります。今後、文部科学省や県が発出するマニュアルやガイドラインを参考に、安全な教育活動が展開できるよう取り組んでまいります。

次に、公立幼稚園園児応募状況について御報告いたします。資料は3ページです。

まず、1の新入園児応募状況について御説明申し上げます。右端の合計欄の一番下にありますように、3園の応募総数は12月1日現在42名で、昨年度の57名より15名の減となっております。

次に、2の現在及び来年度の見込みの状況についてですが、今年度、関宿南部幼稚園、関宿中部幼稚園共に、昨年度より入園児が微減となっており、減少傾向が進んでいる状況です。野田幼稚園については、昨年度と比べ、現年少の41名に対し、23名の応募しかなく18人と大幅に減少しております。昨年10月からの国の無償化による影響なのか精査しながら、今後の公立幼稚園の在り方について、中長期的な視点も踏まえながら検討する必要があります。市全体の未就学児の子供の推移を注視していきたいと考えます。

次に、令和2年度第1回野田市通学区域審議会会議の概要について御報告させていただきます。資料は4ページです。

令和2年12月12日に市役所8階大会議室において、第1回通学区域審議会が開催されました。参加人数は、欠席者が3名ありましたが、14名の委員さんに御出席いただきました。傍聴者の方はおりませんでした。昨年度に引き続き、藤井会長を議長として議事に入りました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校ではなく、市役所で開催となりました。審議事項はありません。内容は、報告事項で3点ありました。

1点目は、小規模特認校の状況についてです。令和3年度入学予定者9人のうち、7人

が学区外からの就学であること、現状として全校児童58人中20人が特認校制度利用であることを説明しました。

2点目は、市内小学校の児童数の推移について、主に、七光台駅前の光葉町許容学区についてです。児童数について、北部小学校は平成30年度から、岩木小学校と清水台小学校は、令和元年度から減少傾向であることを説明しました。

3点目は、学区外就学の状況についてです。学区外就学の申請は、小学校で減少、中学校で増加となっております。申請の主な理由としては、小学校では、通学路の安全性、自宅からの距離や兄弟姉妹が既に学区外で通学していること、中学校では、通学路の安全性や兄弟関係のほか、特性の強い児童が中学校に進学する場合や小学校での友人関係のもつれ等が挙げられます。

出席された委員との質疑応答等について説明いたします。岡田委員より、川間小学区である日の出町から学区外で尾崎小に通う児童は、約60名いることに触れ、今後児童数が減ると、教員と予算が減ってしまうので、規模の小さい学校でも一定の予算措置をお願いしたいとの意見がありました。飯野委員からは、学区外就学の主な理由についての質問があり、先ほど説明させていただきました学区外就学の申請理由として、通学路の安全性や自宅からの距離、兄弟姉妹関係、新しい環境への期待、部活動等について改めて説明しました。須賀委員からは、部活動を理由とする場合、許可できる基準として「(9) その他」に当たるのかとの御質問を受け、市教委としては基準に「部活動」として明記するのではなく、あくまで「その他」として取り扱い、部活動だけが中学校生活ではなく、災害時等の対応も含め多くの要素を検討する必要があると回答しました。

次に、野田市表彰条例に基づく表彰等について、学校教育関係について報告申し上げます。資料は5ページになります。

野田市表彰条例に基づき、学校教育関係では、教育文化功労として近田孝夫様、加藤保夫様が表彰されることになりました。

表彰は、1月4日の新年互礼会の席上で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止となり、事務局より後日連絡を取らせていただきます。

最後に、追加で小学校35人学級について御報告します。

政府が、公立小学校の学級編制基準を現在の40人から35人に引き下げることを決めたとの報道がありました。来年度から学年ごとに移行し、5年後の令和7年度に完全実施となります。これを受けて、教育長から指示があり、35人学級移行に伴い、野田市内小学校の学級数の増減について試算しましたところ、今年度と比べ、令和3年度は8学級の減少、令和4年度以降も減少し続け、令和7年度には、今年度よりも25学級減少し、235学級になるのではないかと試算しております。ただし、特別支援学級については、児童の特性等もあり、予測で算出しております。

学校教育課からは、以上でございます。

◎佐藤教育長

次に、学校教育部長からお願いします。

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

それでは、私の方から、野田市いじめ問題対策委員会の進捗状況について御報告させていただきますと思います。

12月11日、木曜日に、いじめ問題対策委員により作成されました調査報告書案について、いじめ問題対策委員の金子委員長と事務局で遺族への説明を行いました。

当日は、遺族の保護者である御両親に対し、調査報告書を見ていただきながら、いじめ問題対策委員会の設置と調査内容について、当該児童について、いじめについて、自殺との関係について、再発防止に関する提言についてなど、時間をかけ丁寧に説明いたしました。

今後は、説明の中で出された御両親の御意見、それから、後日提出していただく意見書での御意見について、12月25日、金曜日に開催を予定している第11回野田市いじめ問題対策委員会で協議し、それを踏まえた最終的な調査報告書を作成いたします。

年明けの1月には、対策委員から教育長への答申が行われ、当日記者会見等を開催する予定です。

以上で、いじめ問題対策委員会の進捗状況の概要報告を終わります。

◎佐藤教育長

次に、指導課からお願いします。

指導課長。

◎山田指導課長

指導課より4点御報告申し上げます。

初めに、資料の6ページ、令和2年度第2回いじめアンケートの結果についてです。

11月に今年度2回目の「いじめアンケート」を実施いたしました。このアンケートによるいじめの認知件数は、小学校で678件、中学校で24件、全体で702件でした。

このいじめアンケートにつきましては、昨年度のアンケートより、まず、学級担任が全児童生徒との個人面談を通して「安心して記入して大丈夫」という安心感を与えてからアンケートを実施するなど、手順をより丁寧にした方法で実施しております。その影響もあり、昨年度のアンケートによる認知件数は、今までにない件数を認知してきましたが、今年度についても、同じ手順で実施してまいりました。認知件数としては、小学校では平成30年度とほぼ同等の件数に、また、中学校では平成28年度以降で最も少ない件数となっております。それぞれの内訳は7ページ以降のとおりとなりますが、小学校・中学校共に「クラスの友だち」、「学校の友達」からのいじめが全体の約63%で、態様としては、小学校で「冷やかし」、「悪口」、「仲間はずれ」、「ぶつかり・たたく・蹴る」が全体の73%と多くなっております。それ以外にも「家族」からのいじめ、態様として、「物を隠される・壊される」、「嫌なことをされる・させられる」なども認知したところでございます。

中学校では、自分のことではなく見たり聞いたりした態様の中で、PCや携帯電話等のいわゆる「ネットいじめ」が12%あることが気になります。

既に各学校は解消に向けて対応しておりますが、今後、年が明けましたら、各学校とその後の状況、冬季休業中の状況等を指導課と共有し、1件でも多くのいじめを解消できるよう対応してまいります。

また、新型コロナウイルス関連での、いわゆる「コロナいじめ」については、現在のところ報告を受けておりません。引き続き、一人一人の児童生徒に寄り添い、いじめ防止・早期解消に努めてまいります。

関連して、資料はございませんが、長期欠席児童生徒について御報告申し上げます。

11月末現在、30日以上欠席者数は、小学校が89名と、平成25年以来一番多いとはいえ、際だった増加ではありません。中学校でも194名と例年と変わらず、合計でも283名と、数字を見る限り例年と大きな変化はございません。しかし、主な欠席理由「不登校」に注目しますと、中学校の不登校は143人、全体の3.5%で、例年と大きな変化はございませんが、

小学校では、昨年度は27人で全体の0.34%なのに対して、今年度は35人で全体の0.46%と、年々増加傾向にあります。また、以前新聞等でも「夏休み明けに不登校が急増」などという記事が出ておりましたが、今年度、臨時休業や分散登校などもあり、6月末までの授業日数が17日、7月末では39日、8月末では49日という授業日数があり、例年と違い8月、9月から急激な長期欠席児童生徒の増加に伴い、不登校児童生徒も一気にカウントが始まったためと考えられます。中にはコロナの影響で、ゲーム等により昼夜逆転という児童生徒もいるかもしれませんが、まずは、正しい生活習慣を身に付けさせると同時に、今年度は今までにない様々なストレスを抱えている子供たちがいることを念頭に、引き続き丁寧な指導や支援を各学校と連携してまいります。

続きまして、第65回こども県展特別賞についてです。資料は、本日、別刷りでお配りさせていただきました当日配付資料の1ページからになります。

毎年多くの応募があります、千葉県こども県展こと、千葉県児童生徒美術展覧会ですが、今年で65回を数え、コロナ禍にも関わらず、今年度も多くの応募があり、その中でも市内小中学校の多くの作品が入賞いたしました。中でも資料のとおり6名がそれぞれ特別賞に輝き、12月9日千葉市民会館で行われました表彰式に参加いたしました。また、清水台小学校、山崎小学校、岩木小学校、尾崎小学校、第一中学校、第二中学校、南部中学校の7校が学校賞を、七光台小学校、二ッ塚小学校、みずき小学校、中央小学校、東部中学校、川間中学校、岩名中学校の7校が学校奨励賞を受賞しました。市内小中学校の絵画におけるレベルの高さを改めて認識したところでございます。

続きまして、令和2年度「税についての作文」会長賞受賞について御報告いたします。資料は4ページです。

例年行っております中学生を対象とした「税についての作文」コンテストですが、今年度、第一中学校の3年生が、全国納税貯蓄組合連合会会長賞というすばらしい賞を受賞いたしました。また、南部中学校の3年生が、柏税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞いたしました。

なお、入賞者は市のホームページに作品と共に紹介の予定で、1月6日より市役所1階ふれあいギャラリーにて展示する予定にもなっております。

続いて、第70回社会を明るくする運動千葉県作文コンテスト千葉県更生保護女性連盟会長賞受賞について御報告いたします。資料は5ページになります。

日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことなどから、明るい地域社会づくりに関する作文を書くことで犯罪や非行のない社会づくりへの理解促進を図っている、今年で70回目を数える「社会を明るくする運動千葉県作文コンテスト」において、岩木小学校4年生の作文が千葉県更生保護女性連盟会長賞を受賞いたしました。

なお、表彰式は、25日、千葉市生涯学習センターにて行われます。

指導課からは、以上になります。

◎佐藤教育長

ほかに報告事項がありましたらお願いします。

ないようですので、ただいまの報告事項につきまして、御質問、御意見等がありましたらお願いします。

◎佐藤教育長

飯田委員。

◎飯田委員

先ほどの人事異動の議案の関連ですが、女性の管理者を増やしていこうということの中

で、多分女性の職員さんの希望に沿ったというか、希望を聴いた中で、管理者の方向へ導いていくのかと思うんですが、例えば、昨年まではそういう気はなかったけれども、環境が変わったので希望が出てきたというのを、私、自分で結構経験したケースがありまして、多分年に一度くらいは、対話とかなさるのかなと想像するんですが、タイムリーな時期に重ねて数度とか、きめ細かくしていただいて、女性の管理者さんになるべく意欲を引き出していただくような御配慮をお願いできれば有り難いと思います。これは、要望でございます。

以上でございます。

◎佐藤教育長

ありがとうございました。

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

ただいまの飯田委員の御意見、ありがとうございます。我々もそのように考えておりまして、少なくとも、各学校で年間、教職員と管理職との面接を2回は行っております。その中で、毎年、管理職への移行も含めて、それぞれの家庭の御事情もありますので、それらを含めて聴き取りを行った上で、是非力のある人にはそれを目指していただきたいということで進めていきたいと思っておりますので、有り難く御要望を承りたいと思っております。

◎佐藤教育長

そのほかにもございませんか。

高橋委員。

◎高橋委員

いじめの報告について、ありがとうございました。

2点だけお伺いしたいんですが、まず1点目は、この過去3年間の解消率、認知件数、解消率、推移を見ますと、今年度の小学校の解消率が85%と、今までに比べると低いのかなと思います。中学校のいじめってというのは、かなり複雑かなというふうに思うんですが、小学校の解消率の低下理由というのは、やっぱりいじめが複雑化しているというふうに考えてよろしいのでしょうか。これが1点です。

2点目、今課長さんの方から、「パソコンを使ったいじめ12%が気になります」ということがあったんですが、実際のいじめの対応を見ますと、パソコンあるいは携帯電話等で嫌なことを言われたり書かれたりするっていうのは、0%なんですね。今課長さんがおっしゃったのは、見たり聞いたりしたいじめの対応が12%、これが気になるということかなというふうに思うんですが、これは、中学生が自分で消化しているということなんでしょうか。それとも、いじめとしてアンケートに答えづらいということなんでしょうか。どういうふうに解釈したらいいのでしょうか。この辺をちょっとお伺いしたいと思っております。

◎佐藤教育長

指導課長。

◎山田指導課長

ありがとうございます。まず、1点目の小学校の解消率が少し下がっているという点についてになります。この表の一番上に12月7日現在と書いてありますが、先ほど、今日の午前中、現在のところを確認してまいりました。そうしましたら、1回目の解消してない残りが、小学校でいうと99件あったんですね。あったんですけども、今回、同じその99件の該当する児童が、2回目に何らかの記入をしたというのが、99名中23名ということになります。同様の考え方で、中学校は、7月の1回目のアンケートで4件継続支援中でし

たが、2名が同様の回答をしております。

解消率自体は、この時点では低かったんですけども、今年はちょっと生活のリズム自体がずれているところもありますので、概ね同じような解消率になっているのかなと感じています。

また、今回のいじめの学年別を見てみますと、8ページの資料を御覧いただきますと、小学校1年生と2年生と3年生、ここで、全体の7割をカウントしています。1年生、2年生、3年生については、複雑ではなくて素朴に、「叩かれた」、「悪口を言われた」というところが主になっております。4年生、5年生、6年生というのが、複雑化してきていると考えています。

そういうこともありまして、教育委員会アドバイザーの弁護士さんに、今年度は各学校を回っていただいて、高学年から複雑化するというところもありますので、5年生にいじめの特別授業を、各学校やっていただいたというようなところもございます。

続いて、先ほどの中学生のネットいじめ関係です。12%というのは、自分では答えていないけれども、見たり聞いたり12%というところなんです。中学生は、今SNSを活用したいじめ防止というようなところで「STOP i t (ストップイット)」を実施しているんですけども、その中で、いじめの傍観者にならないための授業、特別授業も一緒にやっていただいております。

そういった観点から見ますと、自分では気付いていないうちにネットに上げられているという考え方も、自分で言えずに周りの子から、12%見て、いわゆる傍観者になっているのかなというようなところもありまして、少し気にしているところです。

ネットいじめというのは複雑化してしまっていて、誹謗中傷が女子プロレスラーの死につながるということもありましたので、これについては、来年度以降も「STOP i t」のいじめの傍観者にならない授業、また、コンピューターのリテラシーであるとか、そういったところ、GIGAスクールを使えばネット環境が近くなってきますので、その辺りも含めて折に触れて指導していきたいと考えております。

以上です。

◎佐藤教育長

高橋委員、いかがですか。

◎高橋委員

どうもありがとうございました。ネット関係については、小学校段階でも、もう既にいじめが出ているような数字が出てますので、十分この辺については、学校でも御指導いただいていると思いますが、改めてその指導方法内容等について検討いただければというふうに思います。

以上です。

◎佐藤教育長

そのほかございますでしょうか。

永瀬委員。

◎永瀬委員

幼稚園の応募状況なんですけど、野田幼稚園が極端に減ってるのもあると思うんですけど、今年4月1日の見込みの人数で、やっぱり年長さんから年少さん1学年違うだけで、78人から39人と、合計の人数だと思うんですけど、もう半分になってしまったと。多分今までの流れでこんな極端に半分に減ったっていう年はなかったと思うので、多分無償化の影響とか、そういうのが出てると思います。私も南部幼稚園や中部幼稚園に検診で行って

るんですが、非常に広々とした園庭と、南部幼稚園は芝生も非常にきれいな幼稚園なんです、これ以上減っていくと、今後、数年以内には何か対策を示さないと厳しい状況なのかなと考えた次第です。

以上です。

◎佐藤教育長

この件に関して、事務局の方から何かありますか。

学校教育部長。

◎船橋学校教育部長

今、永瀬委員がおっしゃったとおりと我々も認識しております。今までは長中期的な視点を持っていることとお話ししていたんですが、この状況ですので、早急に検討を始めなければいけないと考えております。

以上でございます。

◎佐藤教育長

永瀬委員、よろしいですか。

◎永瀬委員

ありがとうございました。

◎佐藤教育長

そのほかに、何かございますでしょうか。

(なしの声)

◎佐藤教育長

ないようですので、以上で、教育長の報告事項を終了します。

なお、本日お配りしました各種受賞関係の資料につきましては、一部氏名掲載について承諾が得られていない方がいらっしゃいますので、回収させていただきます。机の上に置いたままにしてください。

本日の議題は、全て終了しました。

以上をもちまして、本日の教育委員会定例会を閉会いたします。

以上会議のてん末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

教育長

委員